

2024/12/23 開催 いけんひろば

こども・若者が社会に参画し、意見を表明していると実感できるようになるには？

いけんのまとめ オンライン回

【オンライン】1・2 ごうどうはん 合同班 しょうがくせい (小学生 めい 5名)	2
【オンライン】3 班 (中学生 6 名)	5
【オンライン】4 班 (中学生～高校生世代、4 名)	9
【オンライン】5 班 (大学生世代～社会人世代、5 名)	13
いけんひろば後のアンケートに書かれた意見	17

2024/12/23 開催 いけんひろば

こども・若者が社会に参画し、意見を表明していると実感できるようになるには？

いけんのまとめ オンライン回

【オンライン】1・2 合同班（小学生5名）

1. みなさんが「意見を聴いてもらった」経験について教えてください。

- 信頼している人でないと自分の意見は言えない。信頼できる2、3人以外には、自分の意見を完全に話すことはできない。信頼できるのは、ある程度の思考力を持つ人である。
- 信頼できるのは家族やきょうだいなど身近な人たちで、信頼できる人になら自分の意見を伝えられる。
- 信頼できるのは家族、友達、学校の先生たちだ。
- 先生や友達、家族なら信頼できる。
- 一緒にいる年数によって信頼できる人が決まる。接触回数が多いほど好感度が高くなるという研究結果もあるようだ。

【どの人に対しても同じ意見を話すことができるか】

- 年齢も考え方も異なるため、信頼する人であっても全員に同じ意見は言わない。
- 誰に言っても相談結果は変わらないと思うため、誰に何を言うかを気にしない。

【どんな人に意見をたくさん言いたくなるか】

- 楽しませてくれる人。
- 意見を言っても何も変わらなければ意味がないので、自分の意見が無駄にならない人、変化をもたらしてくれる人に意見を言いたい。

2024/12/23 開催 いけんひろば

こども・若者が社会に参画し、意見を表明していると実感できるようになるには？

いけんのまとめ オンライン回

- ^{はなし}話をよくうなずきながらきいてくれる人。^{ひと}他のところを見て、^{ほか}自分の話に興味^{きょうみ}がなさそうな人^{ひと}だと言^いいたくない。
- ^{ともだち}友達の意見^{いけん}に賛成^{さんせい}または反対^{はんたい}するときに、たくさん意見^{いけん}を言^いいたくなる。友達^{ともだち}が意見^{いけん}を出さないときには、自分^{じぶん}も意見^{いけん}を言^いいたなくなる。意見^{いけん}を言^いわない人^{ひと}がいるときに、その人^{ひと}が意見^{いけん}を言^いうまで待^またなければいけない^いのが嫌^{いや}だ。手^てを挙げ^あげた時^{とき}になかなか自分^{じぶん}を当^あててくれないときも嫌^{いや}だと感じ^{かん}じる。自分^{じぶん}の小学^{しょうがっこう}校では、手^てを挙げ^あげたのに当^あてられたら自分^{じぶん}の言^いいたかった意見^{いけん}を忘^{わす}れるという人^{ひと}もいる。
- 意見^{いけん}を言^いわない人^{ひと}がいるとき、確^{たし}かに自分^{じぶん}もイライラする。だけど、自分^{じぶん}は手^てを挙げ^あげた時^{とき}に言^いいたかった意見^{いけん}を忘^{わす}れてしまう人^{ひと}である。なぜか忘^{わす}れてしまう。
- ^{はなし}話を分^わかってくれる人^{ひと}でないと話^{はな}したくない。自分^{じぶん}の意見^{いけん}を話^{はな}したときに、意見^{いけん}を議^ぎ論^{ろん}のテ-ブル^あに挙げ^あげてく人^{ひと}なら、ある程度^{ていど}納^な得^{とく}して話^{はな}すことができる。
- ^{おおにんずう}大人数^{まえ}の前^{はな}で話^{はな}すときは自分^{じぶん}の意見^{いけん}を言^いいにくい。恥^はずかしく感じ^{かん}じる。
- ^{がっこう}学校^{そうだん}で相談^{そうだん}することがあまりない。

2. みなさんが「意見^{いけん}を聴^きいてもらえなかつた」経験^{けいけん}について教^{おし}えてください。

- 意見^{いけん}をきいてもらえていないと感じ^{かん}じたのは、勝手^{かって}にルール^きを決^きめられたときである。通^{かよ}っているオンラインフリースクールでは話^{はな}し合^あいでルール^きを決^きめることが多いが、ある日^{おひ}突然^{とつぜん}ルール^かが変^かわっていた。そのため、上^{うえ}の人^{ひと}に話^{はなし}をしてきた。ルール^{へんこう}を更^まえる前^{まえ}に、「このよう^{へんこう}に更^まえたいけど、どう思^{おも}う？」ときいてほしい。
- ^{がっこう}学校^{じゅぎょうちゅう}の授^{のこ}業^じ中に、残^{のこ}り時^じ間^{かん}がないと、挙^{きよ}手^{しゅ}していてもスルーされることがある。

2024/12/23 開催 いけんひろば

こども・若者が社会に参画し、意見を表明していると実感できるようになるには？

いけんのまとめ オンライン回

3. どういうふうにしてもらったら「意見を聴いてもらえている」と思いますか。

○聴いてもらえる/聴いてもらえないと思うとき

- 自分が話している最中に他のところを見ていたり、無視されたり、他の遊びをされているときには、きいてもらえていないから意見を言いつらいと感じる。
- 大事な意見もあるから、無視する人などの前では話しにくい。
- 自分のせいではないのに自分のせいにされたときに、自分の意見をきいてもらえていないから話し合いたいと感じる。
- 多数決では、自分の意見が少数派であるとき、反映されないと感じる。多数決であるから仕方ないと思うが、決定事項に少しも少数派の意見が反映されないと悔しいと思うときがある。特に 1票差で結果が決まり、自分が少数派であったときに悔しいと感じる。
- 何かを決める際の「このように決定して良いですか？」というきき方は、同意を求めており、決定を拒否することもできる。ただ、相当自信家でないと拒否しづらいと思う。「良いですか？」のあとに「他の意見があったら話し合うことができる」と付け足してほしい。
- 多数決の話に関連して国や地方自治体の選挙でいうと、有権者に占める高齢者割合が多いと、高齢者の意見をきいて高齢者向けの政治をしている人が当選しやすくなると聞いたことがあり、納得した。

以上

【オンライン】3 班（中学生 6 名）

1. 政策に関する「意見を聴いてもらえている」とはどんな状態ですか。

- 自分が住んでいる地域で開催されたこども会議に参加して、自分の意見を言ったことがある。
- 地方自治体がパブリックコメントなどを実施していることが多いが、年齢制限があったりするため、こども世代の意見をきいてもらえる場所は少ないと感じた。
 - 自分が住んでいる地域で開催されたこども会議は 18 歳までしか参加することができなかった。
- 学校では全校生徒と一緒に話し合う機会が年 1 回ある。しかし、地域には意見が伝えられない。地域全体で話し合う機会が少ない。
- 自分は意見をきかれていると思う。学校でアンケートがある。
 - 自分の学校にもアンケートがある。
 - 1 か月に 1 回くらいの頻度で「どうのことをしているか」や「学校をどう変えたいか」というアンケートがある。
 - 学校から貸与されているノートパソコンに授業用のアプリが入っている。そのアプリを通じて、「学校生活はどうですか」といったようなアンケートが月 1 回くらい送られてくる。
- 自分の学校ではアンケートはない。「学校にどういったことをして欲しいか」というアンケートを実施して欲しいと思う。
- 自分の学校ではアンケートはないが、生徒会に意見を伝えることができる目安箱がある。生徒から「制服の移行期間・着方を変えて欲しい」という意見が多く集まり、その結果として規則が変わったことがある。意見が反映されたという実感があった。
 - 自分も似たような経験がある。学校に目安箱があり、そこに意見を投函すると生徒会に意見を伝えることができる。校長室の前にも目安箱が設置されており、そこに意見を投函すると 1 週間くらいで返事をもらえる。
 - 全校生徒が意見交換する生徒総会のようなものがあり、1 つの議題について意見を出し合う。その結果、靴下の色に関する規則が「白のみ OK」から「黒や紺色も OK」に変わったことがあった。

○「意見を聴かれなかった」というエピソードはあるか？

- パラリンピックがあったとき、自分が住んでいる地域はこどもの意見をきかずに「観戦に行かない」と決めていた。隣の地域も大人が検討して決めたようだが、自分の地域とは異なり「観戦に行く」という決定がされていた。観戦に行くかどうかを決める時にこどもに意見をきいていれば、自分の地域も観戦に行くことができたのではないかと感じる。

○意見を言えている/言えていないという感覚はどちらのほうが強いか？

- 学校のパンフレットなどで「意見を言う場があるよ」と教えてもらえているため、自分は意見を言えていると思う。

2024/12/23 開催 いけんひろば

こども・若者が社会に参画し、意見を表明していると実感できるようになるには？

いけんのまとめ オンライン回

- 友達とかと話しているときに「こうなったら良いよね」という意見が出ることもあるが、それを伝える場がないため意見を実現できないことが多いように思う。

○社会や政策に関して自分の声が聴いてもらえたという経験はあるか？

- 特に意見はない。
- 自分が住んでいる地域で開催されたこども会議で区長に「公園でボール投げができるようにして欲しい」という意見を伝えたところ、1か月後くらいに公園のルールが変わって「柔らかいボールなら投げても良い」というルールになり、嬉しかった。
- 自分がいる地域では地域全体で話し合う機会が本当に少ない。行政の人たちが話し合って色々なことが決まるため、自分たちの意見は反映されにくい。こどもたちの意見をきいて、それを反映するような機会を作ってもらえると嬉しいと思う。

○自分たちの声が聴いてもらえると実感するのはどのような時か？そのために大切なことは何か？

- 意見に対するフィードバックがあったほうが良いと感じる。意見を言った後、その意見に対する回答が広報などで返ってくると良いと思う。
- フィードバックがあると意見をきいてもらえていると感じる。実現が難しい意見だったとしても、「こういった理由で難しいです」や「実は既に検討中です」といった返事が返ってきたほうが納得できる。
- 自分が伝えた意見が反映されて行動に移された時に「意見をきってくれたんだな」と感じる。生徒総会で伝えた意見をもとに校則が変わったり、日常的に言っていたことが反映されたりした時に意見をきいてもらえたという実感を持つ。
- 生徒総会などで出した意見を形にして行動してもらえたら「自分の意見が反映された」と感じる。
- 自分が伝えた意見をもとに行動に移してくれたり、意見に対して返信したりしてもらえることで、「意見を言ってみよう」という気持ちが高まる。

○どのような場所・雰囲気であれば意見が言いやすいか？

- 友達などの仲が良い人は自分の意見を尊重してくれたり聞いてくれたりする。話しやすい関係の人がいることが重要だと思う。
- 周りの人が肯定してくれたり、「私も同じ意見です」と共感してくれたりすると意見が言いやすい。
- WEB フォームなどで手軽にいつでもどこでも意見を出せると、思いついた時に意見を言えるので良いと思う。
- インターネットだといつでも書き込めるので、思いついた時に意見を伝えることができて良い。アンケートだといつでも書き込めるので良いと思う。
- 悩みごとなど、人の前では言えないものもある。そういったものはアンケートで言うことができると嬉しいと思う。

こども・若者が社会に参画し、意見を表明していると実感できるようになるには？

いけんのまとめ オンライン回

2. 「意見を聴いてもらえている」状態を実現するために国は何をしたほうがいいですか。これまでの説明を聞いて、こども政策に関して自身の意見を「聴いてもらえている」という人を増やすために、もっとしたほうがいいことはありますか。

- 学校で実施されるアンケートは回答できる人が多いが、こういった場（いけんひろば）は浸透していないのかなと思う。こども家庭庁でもっと宣伝しても良いのではないかなと思うくらい閑散としている。教科書に書いてあること、学校で教えてもらえることしか知らない人が多い。
- 個人的には塾に行けない人や時間が余っている人は参加するかもしれないが、夜遅くまで用事がある人は平日夜の参加は難しいと思う。土日勉強をしていて参加する時間がない人がいると思う。
 - いけんひろば開催日と塾が被っても、塾を別日に振替できるようになれば参加できる人が増えるのではないかな。
- 色々な形で意見をきいてもらえる場があると参加しやすいと思う。いけんぷらすでは決められたテーマについてじっくり話し合うことができる。しかし、テーマとして設定されていない課題や自分で気付いた課題などについて話す機会は少ないため、そういったことを気軽に発信できる場などが色々な形であると良い。
- 学校の先生などに認められると「参加したら褒めてもらえる」というような理由で参加する人が増えると思う。
- 学校内だけで実施されるアンケートが多い。国全体でアンケートが実施されれば、国に意見が届くと思う。
 - 国が実施するアンケートについて、自分が意見を言うことができるようなアンケートが増えていくと良いと思う。
 - 意見を言いつらい人もいると思うので、アンケートは良いと思う。しかし、国で一斉にアンケートをすると意見が沢山集まりすぎてしまうため、選択肢式にするなどの工夫が必要だと思う。地域単位など小さい単位であっても良いので意見表明の機会を作ることで「意見をきいてもらえる」という時間が持てると思う。
- 意見を受け取った側が意見を反映した政策をとってくれると意見をきいてもらえた実感がある。ちゃんとフィードバックを返してもらえると、「本当に意見をきいてもらえるんだ」と感じる人が増えて、それによって「ちょっと面倒だけど意見を言ってみようかな」と思う人が増えると思う。
- 国だけではなく市区町村が発信する媒体で広報したり、アンケートを載せたりすることができれば、意見を言う人が増えるのではないかな。
- いくら質問をされても結果につながっていないと「質問されたことに答えても、実行に移してくれない。単に質問しているだけなのではないか。」と感じてしまう。時間がかかっても良いので、意見を踏まえて何かしらの対応をして欲しい。
- 「教育費の無償化をやって欲しい」という意見を伝えたとしても実行されなければ単に意見をきかただけで終わってしまう。右から左に聞き流しているだけである。
- 中学生・高校生になってくるとスマートフォンを持つ人が増え、情報収集の手段が広がる。それによって、「こども若者★いけんぷらす」や市区町村に関する情報を得やすくなる。小中学生は情報収集の手段が限られているため「意見を伝える場所があるよ」と伝えること自体が難しいと感じた。

2024/12/23 開催 いけんひろば

子ども・若者が社会に参画し、意見を表明していると実感できるようになるには？

いけんのまとめ オンライン回

- 年に1～2回で良いが、各省庁の大臣などに直接意見を伝える機会があると良いと思う。中央省庁は東京に集中しているため、大臣が地方に出向いて意見をきくことで「自分の意見がきかれている」という実感を持つ人が増えると思う。

以上

【オンライン】4 班（中学生～高校生世代、4 名）

1. 政策に関する「意見を聴いてもらえている」とはどんな状態ですか。

○こども政策に関して、「自身の意見が聴いてもらえている」と思いますか

- どちらかといえばそう思わない。政策に関する話はエビデンスがないと実現に向かわず、意見をきいてもらっていないと感じることが多い。高校生なのでエビデンスを集めるのは難しい。
- そう思う。いけんひろばに 7 ～ 8 回参加している。参加した分、政策に意見が反映されていると思う。また、住んでいる自治体で、こどもが主体となる活動をこどもが審査して助成金が出るという取組に参加している。自分の力で地域を変えていこうという取組なので、「そう思う」を選択した。こども家庭庁やいけんぷらすについては学校で知った。それ以前はこども政策について知らず、「どちらかといえばそう思わない」と思っていた。
- どちらかといえばそう思わない。意見をきいてもらえることを実感する機会が少ない。最近いけんぷらすを知ったが、知るまでは意見をきいてもらう場所が分からなかった。だから、「どちらかといえばそう思わない」を選んだ。
- どちらかといえばそう思わない。こどもに関する身近な政策が、自分の住む地域で行われている実感がない。
- 現在、いじめや不登校支援に関わる団体の代表をしている。活動の一環で子ども家庭支援センターなどにかかけあうことがあるが、「意見の件数が少なすぎる」「かかるお金に見合うメリットや署名がないと、活動をサポートできない」と言われることが多い。また、自分は縁があつてそうした機関にかかけあえたが、そもそも行政機関に声をかける機会や情報が少ない。「自分の意見が聴いてもらえている」と感じるハードルがそもそも高い上に、実際に行政機関と意見交換をすることにはさらに高いハードルがあると思う。

○普段、「意見を言えている」と思いますか。

- 思わない。意見を言ったらどうなるのか心配で、戸惑ってしまい、学校でも大人や友達同士でも意見を言えないことが多々ある。
- 思う。意見を言う場は、学校や友達の前程度しかないが、基本的には発言することが幼いころから好きで、授業や友達と話す時にもよく発言する。でも、発言する内容について「こういうことを友達に言っても良いのかな」と気にすることはある。
- 思う。学校の授業などの限られた場所なら発言できる。ただ、いけんぷらすがないと意見を言うのが難しいように、場所がないと「言いたいことがあるのに言えないな」ということはある。いけんぷらすは意見を言いやすい場だと思う。
- 状況によると思う。大人に対しては意見を言いやすいが、同年代には意見を言いづらい。自分が関わる大人は、家族や先生であり、自分とは仕事として関わっているので、嫌なことがあっても表に出さない。同

子ども・若者が社会に参画し、意見を表明していると実感できるようになるには？

いけんのまとめ オンライン回

年代の方が色々気にしてしまい、あまり意見を言えない。政策や行政に対して、意見は言えていると思う。

○どんな先生に意見を言いやすいですか。

- 当たり前かもしれないが、優しい先生には意見を言いやすいが、怖い先生には言いにくい。
- 部活に関してしんどいと思うことがある時期に、親身に支えになってくれる先生は優しいと思った。
- 「仕事は仕事」と割り切ってくれる先生の方が、優しい、信頼しやすく、相談しやすく、話しやすいと思う。
- なんでも肯定してくれる先生は信頼しやすい。

○どういうときに「意見を言えている」と思いましたか。

- 自分が最近意見を言えていると感じたことは、自分が代表を務める団体で、一緒にイベントをやってくれなicaとお願いしていた NPO とお仕事をできることになった際に、こちら側の意見を全面的にきき入れてもらったこと。相手には、「こことここは直さないといけなけれど、それ以外はすごくいいから一緒にやっていこう」と言ってもらえた。
- 特定の人だけが意見を言える状況でなく、みんなが言いたいときにいつでも言えて、否定はするが理解はしてもらえる場場だと言いたいと思う。そういった身近な場として、学校の社会の授業がある。先生がすごく明るく、その授業はいつも楽しくて積極的に発表している。発表があまりない話題でも、先生は無理に誰かを指名せず、その時に発言したい人が発言できるようにしており、とてもやりやすい。
- 自分が発表をしたあと、きき手からなかなか質問が出ないことが多い。質問をしてくれると、自分の発表に対して質問を持つくらいきいてくれたんだと思う。
- 友達と出場したいコンテストがあったときに、そのコンテストに指導教員として関わったことがある先生がいた。その先生に話をきいてみたいと言ったところ、「良いですよ」と言って色々な話をしてくれた。また、通っている学校にはスマートフォンを使って先生と生徒で個人チャットができる仕組みがある。先生に意見を言うハードルが低く、言える機会が多い。
- 自分が通っている学校も、似ている雰囲気である。
- 分からないことやききたいことがあったときは、先生に直接きく。直接会ってきたほうが内容も分かりやすい。通っている学校には、全校クラスルームはあるが先生とのチャットはなく、先生とのチャットがあったら良いと思った。
- 通っている学校には、定期的な教育相談がある。先生と対面で一对一で話すことが多い。

○相手からこういった反応があると、自分の意見が伝わったと思うか。「意見を聴いてもらえる」とはどういった状態か。

- 肯定するときは、ただ肯定するだけでなくどこが良いか具体的に伝えてくれて、指摘するときは、具体的に指摘してくれることで意見をきいてもらったと思う。

子ども・若者が社会に参画し、意見を表明していると実感できるようになるには？

いけんのまとめ オンライン回

- 担任の先生に進路相談をしたとき、こちらの立場に立って「こういうことができてないから、こういうことができたらいと思うよ」とアドバイスをくれた。自分を理解してくれたり、理解したところから助言をくれたりすると意見をきいてもらえたと思える。
- こども家庭庁が実施しているアンケートでは、自分の意見がどう使われるか分からない。対面の方が意見をきいてもらえたと思える。

○国や地方自治体に対して、意見を聴いてもらえていると過去思ったことや、聴いてもらえるという状態に対して意見はあるか。

- 実際に自治体に意見をきいてもらった経験はない。返答があり自分の意見に興味を持ってもらえていることと、意見が反映されていることが分かるという2つがあると、意見をきいてもらった実感があると思う。
- 複数の部署が関わる事業の場合、行政機関から2～3か月で返答があれば、興味を持ってもらえていると思う。国事業では2～3か月で返答があることはほとんどない。行政機関に興味を全く持ってもらえないと、6～7か月待たされることが多い。
- こども家庭庁に寄せられた意見全てに返答するのは大変なことだと思う。YouTube にいいねボタンがあるように、「この意見いいね！」「この意見はきいたことがなくて勉強になる！」といったボタンでこども家庭庁職員がリアクションしてくれたら意見をきいてもらえたと思う。

2. 「意見を聴いてもらえている」状態を実現するために国は何をしたほうがいいですか。これまでの説明を聞いて、こども政策に関して自身の意見を「聴いてもらえている」という人を増やすために、もっとしたほうがいいことはありますか。

- こども基本法3条に基本理念は書かれているが、こどもの意見をきくことは義務として定められていない。地方自治体では「そこまで積極的にやらなくて良い」というように業務の優先順位が低くなっているのではないかな。
- Xのような気軽に意見を交流できる場がほしい。意見の交流できる場所に加えて、交流がない場所もあると、自由に意見交換ができるのではないかな。
- 意見をきいてもらえるアプリケーションをつくる。私たちの世代は政治に興味がない人も多い。政治に興味がない人でも自分の意見を簡単に言えるようにして、意見を言いやすい内容からまとめたら、自分の意見を出したい人が増えると思う。
- 友達と意見交流するときは、自分たちの意思でしたいことがある。行政に対して意見を言えたとしても、自分たちで動かすことはなかなかできない。自分たちのしたい政策が自分たちのおかげで実行されたら、意見をきいてもらえたと思える。それが難しければ、Xのようなプラットフォームでこども同士の繋がりがあれば意見をきいてもらえたと思える。
- Xで「こども若者★いけんぷらす」を知った。そうした意見の発信ができる場があることは、広告をでもっと発信してもらえると良い。自分と同じ理系の友達には、意見を言うことに興味がない人も多い。考える機会がもっと増えると良いと思う。

2024/12/23 開催 いけんひろば

こども・若者が社会に参画し、意見を表明していると実感できるようになるには？

いけんのまとめ オンライン回

- いけんぶらすの広告については、こども家庭庁職員数が増えればできることも増えると思う。
- みんなのパートナーぽんぽーのような役割をもっと大きくして、こどもたちの意見をこどもたちが添削するような役割があったら良いと思う。
- 意見の発信ができる場所をまとめてもらうとすごく助かる。
- こども家庭庁や自治体職員が、週 1 ～ 2 回程度、中学校・高校に来て、意見を言えるような機会があったら良い。

以上

【オンライン】5 班（大学生世代～社会人世代、5 名）

1. 政策に関する「意見を聴いてもらえている」とはどんな状態ですか。

○そもそも政策に関する意見とはどんなものでしょうか。

- 言葉の定義は難しいと思うが、「自分はこれに関してこうした方がいいと思う」と文章化できる意図が意見ではないか。例えば、「僕は税金を下げた方がいいと思います」というのは意見。
- 理由とか根拠を説明できるもの。ふわっとしていて言語化できないものも意見としてあると思うが、根拠があると意見として説得力が増すので、根拠があるものが意見だと思う。
- 意見ではないものは何かというと、気持ちだけ表明しているもの。例えば、「今この状態に対して怒っている」ということだけだと意見と言えるか疑わしい。だからこうしてほしいという要求があれば意見になると思う。
- 根拠のあるなしも含めて困っていることはすべて意見。自分はこう困っているからこうしてほしい、というのが意見だと思う。怒るということについて話があったが、怒ると叱るは違う。叱るは理由がある、怒るは感情のままに強い口調でいうことだときいたことがある。感情だけで言うのは意見でないのか、ただその感情の裏にも考えがあるから意見と言えるのか、難しいと思ってきいていた。
- 難しい議論だと思ってきいていた。感情プラス要求があることが意見なのかなと思ってきながら考えていた。意見は間違いということがなく、人によって異なるものだと思った。「間違いがない」というのは、答えがないという人によって違うということをイメージしている。
- 難しい話だと思ってきいていた。難しいテーマを選んできたと思っている。自分も意見を出したことがある。こども家庭庁を創設してほしいと国会議員に訴えた。こども政策について課題があり、その課題を解消するためには組織をつくらないといけないという根拠をつけて意見を提出した。だから意見には根拠が必要ではないかと思う。
- 自分はプログラムを書く仕事をしている。会社でどう楽にプログラムを作れるかという議論をするが、そのときに自分が「こうした方がいい。理由はこうです」と考えを表明していると「意見を言っている」と思う。
- SNS で発することも意見だと思う。誰が見ているかわからず、見ているのは不特定多数ではあるものの、何らかの考えに基づいて発信している。ただ、関わりを持って意見をきいてもらえていると思うのは対面が多い。SNS でもフィードバックをもらえるなら、たとえば X だったらポストに対するリプライなど、反応があれば意見をきいてもらえていると思う。
- 政策に対する意見をききかれていると思うときは、必要性を求めているとき。地元ではこどもの権利に関する条例がないので、市議に関連する条例を作ってもらえないか話したことがある。自分の周囲ではまだこどもの権利が浸透してきていない。自分が必要性を感じてそうした意見を市議に話したので、政策に関する意見とは必要性を伝えることなのかなと思う。
- そもそも政策に関する意見を言うにあたり、一般市民と国会議員のつながりはあまりないと思う。市議会議員であれば選挙のときに応援していただきと話をきかれることもあると思うが、私の場合は市で行っている市議との対話会に参加して意見を言っている。

子ども・若者が社会に参画し、意見を表明していると実感できるようになるには？

いけんのまとめ オンライン回

- 政策に対する意見を人生で言ったことがない。自分の思いをどう政策に反映してほしいかという自分のやってほしいことを掲げている政党に投票することのみ。自分の思いを誰かに伝えるということは、割と無力感があるやっではない。無力感とは、例えば、国会議員の知り合いもないし、市議なら話せる機会があるかもしれないが消費税を下げてといっても変えられる権限がない。そうしたことを考えると大きく何かを変えることはできないのではないかと思います、意見を表明していない。
- 自分が政策に対して意見を言っていると思うときは、県や市の LINE 公式のアンケートに回答したとき。自分の周囲では若者評議会政策提言している人もいます。また、市役所に対して提言するプロジェクトをしているのを見たり、自分たちで団体を作って政策提言しているのを見たりする。自分ではアンケートに回答することで意見を言えていると思う。
- 自分が住んでいる地域は人口も少なく高齢者が多い。議員に言っても高齢者の意見しかきいてくれないのと思う。国政・県政でも一緒。選挙には行くが、大して期待はしていない。パブリックコメントを書いたときに政策に対して意見していると思うが、自分の困りごとに対して回答があるわけではない。議員にしても役所にしても、生活が良くなるように改善してほしいでも大して仕事をしてくれないとも感じる。12/14 対面のいけんひろばに参加したが、国が求めている意見しか言えないと感じる。意見を言っても区に言ってください、など言われてしまいどうせ一緒かな、と思うと、どうしていけんひろばに参加しているのかな、と堂々巡りな感じがして気持ちが悪い。

2. 「意見を聴いてもらえている」状態を実現するために国は何をしたほうがいいですか。これまでの説明をきいて、子ども政策に関して自身の意見を「聴いてもらえている」という人を増やすために、もっとしたほうがいいことはありますか。

- 自分は「防衛モニター」を務めている。防衛モニターというのは自衛隊や安全保障政策に関して意見を言う役割。「あなたはこういう風に思いませんか」ときかれて答えているだけでどうなのかなと思っている。意見を言ってもフィードバックされないと感じる。意見がそのあとどうなったのかがはっきりしないところがある。いけんひろばはちゃんとフィードバックしてくれるので、それはありがたいと思っている。自分の住んでいる地域では中学生と市長の意見交換会が開催されているが、市からはフィードバックされないの、その後どうなったかわからない。子ども若者の意見をきいていけばいいや、となってしまうのではないかと思います。
- 「こうしてください」といったことが実行されて、「実行されたとわかる」ときいてもらえたと思う。自分はニュースを見るので、ニュースで関連する法案が通れば意見がきいてもらえたとわかる。ニュースを見ない人でもその法案に関する目に触れる広告があって、例えば、税金が下がった、ということがあれば意見をきいてもらえたと思ってもらえると思う。
- 意見をきいてもらえるというのは、相互にコミュニケーションができていない状態。片方がこれどう？ときいて返事がないと話しているだけ。「わかりました。現実的にはこうなります」くらいでも回答があれば相互コミュニケーションができていいると思える。そうすれば自分の声が届いている、と感じられる。現実的には大きなことを変えるには小さいことを積み上げないと変わらない。自分が興味を持っている福祉政策でもそうだと思う。そういうことを感じてから、小さいことでもきいてくれる・耳を傾けている人は、「本当はこうしたいけど、今のところはこれしかできないよ」と言ってくれるだけでも意見をきいてくれると感じる。法案を通というのは

こども・若者が社会に参画し、意見を表明していると実感できるようになるには？

いけんのまとめ オンライン回

ものすごく大きなエネルギーが働いていると思うので、そこまでいなくてもコミュニケーションをしてくれれば意見をきいてもらえているかなと私は感じる。

- 自分の意見をきいてもらえているときは、意見が実行されたときだと思う。実行できなくても、できていないことを認識して相手がしっかり考えた上で返答してくれたら意見をきいてもらえたと思う。最初は実行されていることが必要かと思ったけれど、実行できなくてもしっかりした返答があってコミュニケーションができていれば意見をきいてもらえているということかなと思った。
- 意見を伝えて、事務局が「わかりました。こういうことがあってだめになりました」と言われたら、事務局が政治家にも伝えず事務局判断で返答したのかなと疑ってしまう。なので、実行されないと意見をきいてもらえなかったと考える。政治家から返答があったとしても、「検討の結果、善処しました」といった誰でも答えられる返答であつたら、何も考えてくれていないので意見をきいてもらえなかったと思う。意見をきいてもらえると感じることの第一は政策実現で、次点は相手との対面での会話。相手がその場で考えて答えてくれたときにも意見をきいてもらったと感じられる。
- 以前、内閣府のモニターとして文化庁の京都移転についていけんひろばのようなもので対面で意見を伝えた。それから後になって、文化庁が実際に移転したことで、自分の意見が反映されたかはともかく、国が話していたことが本当だったんだと実感した。最近、教員の給料が上がるという話があつたが、詳しくくと段階的に上がるということだった。文部科学省はたくさん数字を調べて現場の教員の考えはこうだろうと考えたのだと思うのだが、現場が求めていることは何かわかるのか、と思ってしまう。偉い人と現場の意見とでは温度差がある。今思っているのは、自分が 30 歳を迎えたときに、答えた意見へのフィードバックをいつもらえるのかということ。こども家庭庁には意見を表明しているが、いつ言った意見に対するフィードバックなのだろうと思うこともある。フィードバックもまとまって届く。もっと早いレスポンスやこの段階まで進んだという反応があるといい。フィードバックも大事だが、フィードバックに至るまでの過程もあるといい。

3. こども家庭庁の取組についてあったらいいと思うこと

- こども家庭庁の取組はいずれも、こども若者の意見をきき取る段階の取組だと思った。これまでの議論で、意見をきかれるということは、意見が実現されるか、あるいはどういう理由で実現されなかったかが返されること。したがって、こども家庭庁が次にやるべきことは、意見を検討した結果をぶらすメンバーに伝えるか、意見を実現すること。その一歩先の話として、そうしたことをやっていることを知らせるために政策に関する広告を打つなどすること。法的に問題がないならやるべきと思う。
- 今のこども家庭庁の取組は「意見をきいているとは言えない状態」と考えている。いけんぶらすに去年から参加しているが、こども若者が困っていることに対して意見を求めているのではなく、国が欲しい意見をきいている段階。そのため、意見をきいているうちには入らない。地域で教育振興基本計画を策定しようとしているが、こども若者から意見をきくためのガイドラインがあることも知らない。意見をきいてもらえたという人を増やすのであれば、「何に困っているか」「国に何してほしいか」をきいたうえでこども家庭庁が横のつながりで色々なところに伝えて、こども若者はいまこういうことを考えていて、こういうことに困っていて、こういう解決をしてほしい、と話した上でフィードバックをしてくれたら「自分たちの意見をきいてもらえた」「生活が良くなった」と実感できると思う。ぶらすメンバーの中でも登録はしたけど意見は言えていないという人が絶対に

2024/12/23 開催 いけんひろば

子ども・若者が社会に参画し、意見を表明していると実感できるようになるには？

いけんのまとめ オンライン回

いるので、そういう人から「どうして意見を言わないんですか」とききながら、子ども若者が困っていることもきいた方がいい。国の偉い人が子ども若者から意見をきいて、こうしていることを考えてこうしているとかわかる方が、子ども若者に政治に興味を持ってもらうきっかけにもなると思う。困っていることをきく場については、去年も今年も実施していたが、ぷらすメンバー向けにどういことを話してみたいかというアンケートを行い、そこからテーマをピックアップしていければいい。

- 子どもにとっては学校が一番身近な場所だと思う。学校に指示ができるのは教育委員会。教育委員会だと先生の負担が増えると思ったので、気軽に発言や意見ができる場所が必要だと思っている。現在のいけんぷらすの仕組みのように、登録した人がいけんひろばに参加できることもその場所の一つだし、SNS などオンラインをつかったシステムでいけんを言えるようになるといいと思う。そうすると意見を表明したい人はするし、しない人はしないということができる。
- 自分の住んでいる地域は高齢者の多い過疎地域だが、最近いけんぷらすのポスターが貼ってあって地元もここまで来たかと感動した。以前、子ども政策に関して意見をしたときには、「子ども若者は永田町や霞が関にはいない」と書いた。子どもたちがいるのは市町村で、永田町や霞が関にいないのに子ども政策はそこで考えられているという状況ができていた。自分はもっと子ども家庭庁の職員が子ども若者の声を拾いに行ってもいいのではないかと考えている。市町村に子ども家庭庁が足を運ぶことで子ども若者がどんなことに困っているか、どんな課題があるかに触れて、それを政策につなげることで良くしてほしいという思いを持っている。
- いけんぷらすがその討論の場になりえるなら、いけんぷらすのチラシを学校で配るといいのかも？
- 今は国がききたいことについていけんぷらすでできていると思う。私たちが言いたいこともテーマに入れるようにしてくれていると思うが限られている。子ども若者が本当に考えていることを伝えられる場をもう少し増やしてほしい。また、皆さんの意見をきいて、国に意見を言って政策に反映されているというのはなかなか感じにくいかもしれないと思った。自分の身近な自治体で意見が政策に反映されたら国よりも変化が感じやすそう。自治体ではまだ子ども若者の意見反映についてあまりわかっていないところもあるように思う。子ども家庭庁が意見をききに行くことも大事だが、それが難しいようであれば、自治体の現場から子ども若者の意見が上がってくるような仕組みづくりをしてもらえるとありがたい。自治体版の子ども若者★いけんぷらすもあるといいと思った。

以上

2024/12/23 開催 いけんひろば

こども・若者が社会に参画し、意見を表明していると実感できるようになるには？

いけんのまとめ オンライン回

いけんひろば後のアンケートに書かれた意見

- 意見を言える機会を増やすことで様々なアイデアを集められるようにしてほしい。若者はテレビや新聞よりもインスタや X、YouTube などを見ているので、そちらでの広報活動を盛んに行い、知名度を上げてほしい。意見をどのくらい反映できたか公表してほしい。
- こども家庭庁として意見を聞いているかわからないから、今回のいけんひろばを実施すると事前説明会で説明があった。聞いているのかわからないのであれば、こども家庭庁の若手職員に第三者目線で意見を聞いたり、ぼんぱーに話を聞いたりしてもいいと思う。ぼんぱーも何をどう活動しているのか（いけんひろばの際の説明のみ）年度末の活動報告まで活動内容や活動状況がわからないため、どこまで活動しているのかわからないが、何か、アクションを起こしてほしい。今回のいけんひろばで何がどこまで改善されるのかわからないが、こども意見係も人数が少なく、他の業務もあり、多忙ということなので、いくら意見を出しても無駄だと感じた。
- 言い足りなかった事は 2 つあり、1 つ目は班で出た意見に付け足しで、スマホを持っていない小学生が意見を言いやすくなるように、学校で貸与されているタブレットからこども若者★いけんぶらすのアンケートに参加できるようになったら国に意見を伝える事が身近になると感じた。2 つ目は、意見を聴いて貰えていないと感じる事があったかについて、中高生の自死が高止まりしていて、学業の不振がこどもを追い詰めてしまっている点について僕も今高校受験の最中なので不安になる気持ちは理解ができて、担任の先生は「どこかの学校には受かるから」と仰るけれど不安は消えないし冬休みも勉強第一で楽しくないし、希望する高校に受からなかった時のメンタルケアをしっかりしてほしい。YouTube のガチャピンチャンネルで「明日会社に行きたくない君へ」という動画の中で、「何をしても何をしなくても君の価値は変わらない」という言葉に救われて、社会がそうあってくれたらこどもはもっとのびのびと前向きに生活できると思うから、長期休み前に保護者向けにこどもとの関わり方を教えてくれる動画の紹介をしてほしい。

以上